

一般社団法人 埼玉私保連



広報

No.147

R3. 8月

発行

ありがとうございました森田先生



新連載

『コロナ禍中の今 大切にしたいことを考える』

研修報告

「発達障害を考える 子どもへの対応と留意点」

訃報

森田前会長逝去

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

「新型コロナウイルス感染のなかで、

今大切にしていたらどうなるか」

清水玲子 元帝京大学教授

保育園のみなさん、この1年9か月、新型コロナウイルス感染の真ただ中ではほんとうにがんばってきましたね。みなさんに敬意を表します。

この1年9か月、保育園はどんなふうがんばってきたのか、そのなかで私たちが見出してきた大切なことは何なのかを共有し、これから先を模索していく材料に少しでもできたらと思います。4回の連載、よろしく願います。



第1回 「新型コロナウイルス感染の

なかで保育園はどう

位置づけられてきたか」

〈新型コロナウイルス禍の始まりから

現在までを振り返る〉

2020年の1月、中国で感染症が流行りだしたというニュースから始まって、武漢の周辺にいる日本人をチャーター機で迎えにいくと決めたのが25日、2月3日には横浜港に到着したクルーズ船の感染が発覚しました。このころはまだ、私たちは保育園に何か起こるとは想像できませんでした。

このあたりからマスクや消毒薬は売切れとなり、普段の5倍もの値段でのネット売買が話題になりました。あちこち

で感染が報告され始め、3月4日、突然小中学校等が一斉休校になりました。

これに先立ち、2020年2月27日に厚労省は都道府県へ「保育所については、保護者が働いており、家に一人であることが出来ない年齢の子どもが利用するものであること」とや、春休みもないなど学校とは異なるものであることから、感染の予防に留意したうえで、原則として開所していただくようお願いしたい」といった事務連絡を出します。また、この前日には保育園の卒園式、入園式について、一律にはないが自粛の方向で、やるとしても感染対策のため、人数を少なく、間隔を開けて、短時間で終える、予行練習などもしないで、といったかなりこまかい内容の文書をだしています。

学校が、感染が心配で休校になるのに、

さらに「密」である保育園の感染はどうなるのか、不安を増大させる先生方もたくさんいたことでしょう。どうすれば卒園式が出来るか、どんなことなら可能か、工夫して、これまでとまったく違っていても、子どもたちも保護者も先生も心に残る何かが行われたと思います。振り返れば、ここが新型コロナ禍での行事をどうしていくか、一から考えることを余儀なくされた出発点だったかもしれません。

そして2020年4月1日の厚労省事務連絡には、2月に出された保育所の位置づけの文言が繰り返され、保育所で罹患する人が出たときや、感染が拡大する地域でどうしても対応しきれないときには臨時休園、縮小なども検討するが「この場合においても、医療従事者や社会の機能を維持するために就業を継続する必要がある者、ひとり親家庭などで仕事を休むことが困難な者の子ども等の保育が必要な場合の対応について検討いただきたい」と述べています。

4月7日、新しい年度が始まってすぐ緊急事態宣言が出されました。同じ日付で出された厚労省の文書では、法律に基づいて、保育の縮小や、感染が著しく拡

大し、実施が困難なときは臨時休園を検討することにするとしながらも、4月1日と同じように実質的には保育を継続するように促しています。

日本中で在宅ワークや自宅待機、休業など、多くの業種が一時ストップし、保護者が在宅の場合は登園自粛が要請され、登園する子どもの数は激減しました。休園した保育園は168園にのぼります。

臨時休園や自粛要請のなかでも、公定価格を通常通りに支給するとの文書が出されたことは、考えれば当然のことですが、ほっとしました。これは、保育所の存在の根拠が児童福祉法第24条第1項にあることによるものでしょう。

緊急事態宣言下の4月24日の文書では、自粛中の保護者にも必要に応じて相談支援を行うこと、支援対象児童については概ね週に1回以上、その状況を確認してほしいとあります。言われなくても、なんとか家庭での子育てを応援し、保育園とつながれるようにしようという電話やメール、郵便だけでなく、YouTubeなどで手あそびや読み聞かせ、歌やダンスなどの動画を配信したり、あそびや献立のヒントなどを載せたお便りを作って、ポス

ティングしたり、玄関ドアの外で、マスク越しに親子の顔をみて5分ほどしゃべるなど、全国の保育園で、たくさんの方と努力がみられました。

そして、緊急事態宣言の延長に伴い、厚労省は5月1日付で、保育が必要になる事例も考えられるため、すべての保護者に保育の必要性を再度確認するように求めています。

夏になり、プールを中止にした園は多かったようですが、このころには、乳幼児への感染はあまりないと言われるようになってきました。それなら手洗いや消毒などに気を付ければ子どもたちはもつとあそべるのではないかと思いました。そしてお泊り保育に替わる企画や、夏祭り、運動会など、迷いながらも子どもたちと楽しめる行事も創り出していきました。

ところが、12月には新しい変異種（デルタ株）が出てきてぐんぐん感染が増加してしまします。2021年1月には2回目の緊急事態宣言が出ます。このときは学校の休校も通勤の減少もなく、飲食店は営業短縮や休業要請ばかりでした。

4月にも3回目の緊急事態宣言が東京などに issuance、6月20日まで続きます。埼玉

県もまん延防止の宣言が出ました。それでも感染は拡大し、罹患しても病院にはいれないまま亡くなる人が次々出るという医療崩壊が起こります。ワクチンの接種に期待が寄せられましたが、十分な供給量が確保できず、現在も打ちたくても打てない人たちが大勢います。

そして、これを書いている9月上旬、東京などは7月12日から、埼玉も8月2日から4回目の緊急事態宣言が出され、さらに延長されそうです。

デルタ株は子どもにも感染力が強く、急激に子どもへの感染が広がっていきます。7月の初め、休園した保育園は16でしたが、9月2日現在は185にのぼっており、これまでの累計では全国で5141園、保育所利用乳幼児5829人、職員5229人が感染しています(厚労省)。感染者が出て休園せざるを得なくなっているのです。

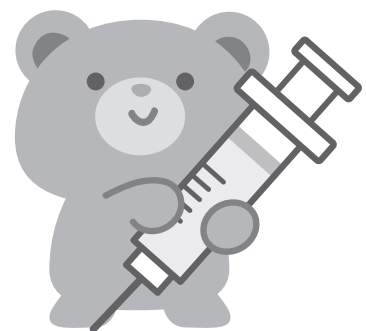
〈いま、保育園の役割と課題を確かめる〉
この一年半以上、保育園は、子どもの育ちと子育て家庭を支えるため、新型コロナウイルス感染と日々、戦ってきました。そして、子どもたちが笑顔であそび、保護者がな

んとか家庭を維持していくことを保障してきました。

いま新しい困難が立ちはだかっています。子どもにも感染しやすくなったのに、子どもにはワクチンも打てませんし、抗体カクテルといった治療もできません。子どもから感染が広がった場合、保護者や職員が感染し、治療が受けられないで重症化する危険を回避する方法が保育園には今ないのです。先生も保護者も、子どもたちやいろいろな事情等で打っていない人を守るためにも、少しでも早くワクチンを打てるように、さらに、もしかかって治療してもらえないように行政に頑張ってもらわなくてはなりません。

保育園が救っている子どもの命もあります。こんな時だからこそ支えなくてはならない保護者もいます。だから保育園は閉められない。でもせめて、希望する職員とその家族も保護者もワクチンが打てるまで、また近隣の医療体制に改善の兆しが見えるまで、保育園は保育の縮小や「密」を減らす工夫をする、などと考えるてはいけなんでしょうか？感染対策はこれ以上無理なくらいしつかりやってきたと思います。職員同士の思いも保護者の

思いも、思い切って本音で話し合い、大胆に考え合う時かと思えます。



2021年度
埼玉県私立保育園連盟
「発達障害を考える
子どもへの対応と留意点」
オンライン(リモート)
研修会報告

日時 2021年6月23日(水)
13時半～15時半(13時開場)
テーマ 「発達障害を考える
子どもへの対応と留意点」

講師 芦澤清音 氏
帝京大学教育学部

初等教育学科 教授
臨床心理士 臨床発達心理士
参加者 80名

定刻になり続々とオンラインに参加者が接続され、芦澤清音先生の公演が始まりました。

『いま行っている保育がどうもうまくいかない』とか『他の子と違う』と感じる時に、『困った行動をする子ども・気になる子ども』だと悩むことが多くあります。そんな発達において気になる子を含めた保育をどう考えたらいいのか、保育士が発達障害を知り、他の子どもたちとの関わりを深めながら、個々の子どもたちにあつた保育をどう考えたらいいのか学びました。

子どもの行動には子どもの願いが込められており、子どもの行動に込められているメッセージを聞き取ることが大切であること。子どもの思いや願いを実現できるような保育の工夫と保育の環境を創造することが大事であること。そのために、子どもの発達特性が何なのかを理解すること。その子がどんなことを思い、どんな活動やあそびが好きなのか、どうしたらその子が興味をもってくれるのかなどを考えることが大事であること。そして、子どもの心が動いていく様子を捉えていくことで、一人ひとりの違いを生かせる保育に

なることを学びました。

また、それは、保育を見直すチャンスであり、子ども理解を深めるチャンスになる。園全体が相談できる仲間となり、みんなで考えることで、子どもの願いを尊重し、共に育ちあう新しい保育を創りだしていくことができることも学びました。

事前に参加者から、子どもとの対応で困っていること、知りたいこと、子どもとの対応で改善できたことや理解が進んだことなどのアンケートを出してもらい講演の中で詳しく教えていただきました。

アンケートによる質問に対して次のようなアドバイスがありました。

- ・困った行動などがあるときは

その行動はどんな時に起こるのか、友達関係はどうなのか、活動への関心はどうなのか、その時にどう対応したらどうなったかなどを、振り返ることでその子なりの理由や物語がみえてくる。子どもは自分の思いを汲み取ってもらうことで次の行動が変わる。

- ・発達障害の理解については、障害の特性はなくすることはできないが、

障害の特性を理解することで保育を見直し、空間や仲間との関係などの環境を考えることで、どの子も排除しない、違いを生かせる保育、新しい保育を作り出していくことができる。

その他多くの質問事例に具体的にお話いただきました。

オンラインのためか、その場での質問や感想はありませんでしたが、「どの子も排除しない保育は、目の前の一人ひとりに始まる。障害があつても無くても、子どもの願いを尊重し、共に育ちあう保育を創っていく」ことが大事であること、そのことをどう保育現場で考えていくか、子どもをみる視点を教えていただき保育の原点を学ぶことができました。

最後に研修部
より次回11月17日(水) 13時半から『発達障害児の保護者への対応』の研修があることが報告され終了しました。

(報告：研修部)



森田前会長追悼文

埼玉県私立保育園連盟の前会長である森田弘道先生は2021年8月28日に逝去されました。生前の多大なる御尽力に感謝いたすとともに謹んでご冥福をお祈りいたします。森田先生を偲び、寄せられたお言葉をここに紹介いたします。なお9月23日にお別れ会が、加須市愛泉教会にてオンライン併用でしめやかに行われたことも報告いたします。

森田弘道先生を悼む
埼玉県私立保育園連盟 会長

村山徹朗

森田先生は、埼玉県私立保育園連盟創設以来本会の発展に力を注ぎ、1999年5月より本会長に就任し、病氣療養のため退任するまで20年近くに渡り、設立からの初心を守り育ててきた気骨のある方でした。この20年間は、保育界において激動の期間でありました。戦後の焼け跡の苦しい時代、戦争の反省から生まれた「日本国憲法と児童憲章、及び児童福祉法第24条において、国の責任において児童を保育しなくてはならない」という理念から出発した戦後の児童福祉政策が大きく捻じ曲げられようとした時代でした。「保育の国の責任を外し個人の責任にする」とした法改正案（新制度）

と森田先生いまだどうしてるかと尋ねられます。「子供の幸せを第一に」考え、そのために行動する森田先生の精神を埼玉県私保連はいつまでも受け継いで行きます。そのことをここに誓い、先生の安らかな眠りをお祈りいたします。

森田弘道先生を偲んで
埼玉県私立保育園連盟 副会長

水上克己

森田弘道先生は、戦後日本の児童福祉の礎を築かれた社会福祉法人愛の泉理事長として児童福祉・老人福祉等の事業に生涯を捧げ、多大な功績を残されました。

福祉関連団体の要職を歴任される中で、平成11年からは埼玉私保連の会長として保育界をリードして下さいました。

常に大局的観点から保育政策や保育現場の課題を素早く解析することのできる博識な先生でした。また、相手がどんな政治家や官僚であっても回りくどい言い回しではなく、舌鋒鋭く持論を展開されました。私保連の役員会でも議論に熱が入ると「そりゃあ、あんた〇〇じゃあねえの」といった独特の言葉使いが飛び出したりしました。そんな飾らな

い自然体の生き方を貫かれた森田先生のお人柄が懐かしく思い出されます。突然のお別れは寂しく辛いですが、森田先生が生涯愛された子ども達の最善の利益を守るために闘い続ける埼玉私保連の活動、これからも天国から温かくお見守りください。

森田弘道先生への弔文

社会福祉法人さやまが丘保育の会

理事 牧裕子

森田弘道先生のご逝去に心からお悔やみ申し上げます。

森田先生とは埼玉私立保育園連盟の役員会で長い間ご一緒させて頂いたご指導ありがとうございました。先生はその一生を信仰と福祉と保育にささげておられました。役員会でも先生がおられると暖かな雰囲気の中に背筋がピンとするような雰囲気でした。正義感あふれる先生は、行政に對してもはつきりものをおっしゃって下さいました。ある時は大宮駅で保育署名もしましたね。

生前、先生から「今度フランスに行くときは、牧先生もご一緒しましょう」とのお誘いが実現できなかつたことが残念です。

長き間のご指導に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。



森田弘道先生を偲んで…

ホザナ保育園 望月昌幸

まだ私が保育の世界に入る前の事。養成校の保育実習先が森田弘道先生の保育園でした。当園の先代でもある故望月広と懇意にしていたようで、保育実習先を勧めて頂いたのが愛泉幼児園さん。今の園舎とは違い木造づくりの温かみのある建物にて森田弘道先生とはじめてお会いした時の事を思い出します。

月日が流れ、縁あって私も埼玉私保連の組織の一員としてお手伝いをさせて頂く事になり、時には事務局長として森田弘道先生と共に活動する中、これからの保育についてご指導頂いた事に

感謝しております。常に幅広い視点を持ち合わせ決断力の速さは埼玉私保連の推進力となっていたと思います。

長年にわたり保育そして福祉にご尽力いただいたご功績を称え、心からご冥福をお祈り申し上げます。

森田先生に敬意を込めて

埼玉県私立保育園連盟 副会長

小嶋素志

森田弘道先生のご逝去に対し心よりお悔やみ申し上げます。

私が森田先生とお会いすることになったのは、平成10年当時、父が運営する太田保育園に副園長として入職した直後で、保育関係の研修・会合等に積極的に参加している頃でした。千葉県で開催された私立保育園連盟全国大会もその一つで、その晩に開かれた懇親会に参加した際に、森田先生を始め多くの先輩園長先生方との知己を得、埼玉私保連広報部員として勧誘されたことがきっかけでした。

埼玉私保連は、平和で民主的な社会の実現と子どもたちの最善の利益と発達保障を目的に、対県交渉や予算対策活動を行ってまいりましたが、その手段や方法に對

して、いつも役員の見解が完全一致することは少なかったように思います。そのような際に森田先生は会長としてリーダーシップを発揮し、広い知識と寛容さ、正義に対する情熱をもつて納得できる一定の意見にまとめあげ、連盟の先頭にたつて私たちを導いて頂いた努力に頭の下がる思いをしております。

会長退任後、体調を崩されたような噂をお聞きしておりましたが、こんなにも早く訃報に接することになるとは信じられませんでした。本当に残念に思います。これからは先生の御薫陶を受けた後輩たちと力を合わせ、先生の意思を繋いで埼玉県の保育事業の発展に寄与することをお誓い申し上げます。追憶と哀悼の言葉とさせていただきます。

森田弘道先生を偲んで…

埼玉県私立保育園連盟 事務局員

宮澤千代子

「やあーこんにちは」帽子を片手に事務局に入室される役員会時の森田先生の笑顔。役員会は活気に満ちていました。事務局員として、特に心に残るのは平成24年5月に開催した関東ブロック「こども・子育て新システム」

を考える1000人研修会です。新システム法案の提出を受け、私保連の呼びかけに関東ブロックが主催者となり緊急に取り組んだ研修会。森田先生からは連日のように事務局に電話「ご苦労さん、参加状況はどうかね」開催二日前「750名か。あと少しだね」当日は全国から1000名を上回る参加者を迎えて理解し合い決議文を採択。常に子どもたちは「社会の宝」と先頭に立たれた森田先生。

一つの灯が消えた寂しさはありますが埼玉私保連に残した足跡は永遠に輝き続けることでしょう。気さくに事務局員にもお声がけいただき有難うございました。ご冥福をお祈りいたします。

事務局

(一社)埼玉県私立保育園連盟

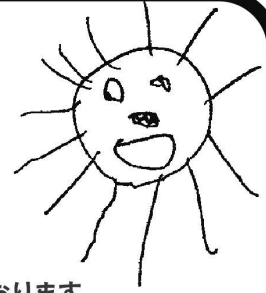
〒363-0015 桶川市南2-7-13

桶川中央マンション2F

TEL 048(772)8623

FAX 048(772)8635

園および園児をさまざまな リスクからサポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
公益社団法人全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険）」
「特別保育事業賠償責任保険」など、
園経営におけるリスクに関する保険をラインナップ
しています。また、それらを総合的に補償する
セットプランもご用意しております。

やくいんのほけん

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクを補償します。



上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

〈引受保険会社〉東京海上日動火災保険株式会社 担当課：公務第二部 文教公務室 TEL:03-3515-4134

連絡先



公益社団法人全国私立保育園連盟指定 / 東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL **03-3865-3881**
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階

子どもの育ちが見えれば、明日の保育がもっと豊かに！

全国私立保育園連盟推奨（総代理店）

導入費用
無料



きっずノート

「きっずノート」は、文字だけでは
伝えきれない園での豊かな活動、
子どもたちが自ら学び・育つ姿を
「見える化」するアプリです。

保育者の
業務
省力化

子どもの
学び・育ちの
見える化

緊急時の
連絡手段

正式利用お申込みの全施設

最大9ヵ月

利用料無料！

契約更新後も料金そのまま！

年間一括利用料6万円

利用しやすい価格に
なりました！

ひと月
あたり **5,000**円
(税別)

※ただし、事業者利用規約の定めにより、将来において利用料金に変更になる可能性がございます。

詳しくはお問い合わせください。

〈担当者：菅沼、太田〉